

西宮神社 一足先に夏祭り

浴衣姿の学生、ビワ配る

「えべっさん」の絵本社で知られる西宮神社（西宮市社家町）で14日、関西で一番早い夏祭りと言われる「おこしや祭り」が開かれた。浴衣姿の「びわ娘」や、えびす人形が祭りを盛り上げ、多くの参拝客らが夏の到来を楽しんだ。（小谷千穂）

場所は「御輿屋跡地」（本町）わ娘から、ビワや甘酒が振るとして残っており、参拝客が互いの尻をひねる風習があったことから「尻ひねり祭り」とも呼ばれている。今年も祭りの大勢の参拝客が集まり、午後2時20分ごろ、えびす様のみこしが神社本殿を出発。太鼓の音とともにびわ娘や氏子、人形芝居えびす座らが街を練り歩いた。その後、御輿屋跡地で巫女による神楽奉納があった後、訪れた人び

この祭りには、ユニークな伝承が残されている。西宮・鳴尾の漁師が、沖で漁をしていた時にえびす様を網で引き揚げた。みこしに乗せて西宮神社に運ぶ途中、えびす様が居眠り。なかなか目覚めないで漁師がお尻をひねって起こしたという。居眠りをされた



参拝客にビワを配る浴衣姿のびわ娘ら。西宮市本町